

3年上

きつつきの商売

新潟大学附属新潟小学校 中野 裕己

単元の特徴・付けたい力

本単元では、「場面」という学習用語が初出である。「きつつきの商売」は、2つの場面から構成されており、場の様子、登場人物、登場人物の行動などから様々な違いが読み取れる。2つの場面の相違点を考えることを通して、場面の移り変わりを捉えることができるようにしたい。さらに、きつつきの出す音を聞いた登場人物の気持ちからは、2つの場面に一貫して描かれている「おとや」のよさが浮かび上がってくる。2つの場面の類似点を考えることを通して、場面のつながりを捉えることができるようにしたい。

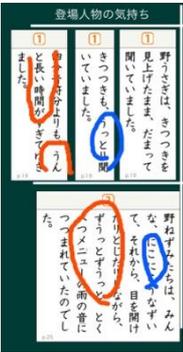
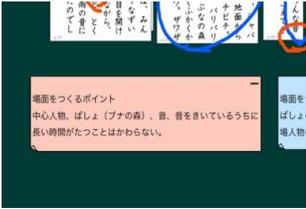
ICTの活用について

デジタル教科書の「マイ黒板」で、場の様子、登場人物、登場人物の行動、登場人物の気持ちを表す叙述を抜き出して、場面ごとに整理させる。そして、2つの場面の相違点に気づかせて、場面の移り変わりを捉えさせる。さらに、2つの場面の類似点に気づかせて、場面のつながりを捉えさせる。

全時学習活動（全8時間）

時	主な学習活動	
1	「きつつきの商売」全文の読み聞かせを聞き、初発の感想を伝え合う。 漢字や語句の確認をする。	
2	「場面」という学習用語を確認し、「きつつきの商売」が2つの場面で構成されていることを確かめる。 学習課題「3場面をつかって、友達と読み合おう」を設定し、学習計画を立てる。	
3	1場面と2場面の、場の様子、登場人物、登場人物の行動、登場人物の気持ちを整理する。	
4	2つの場面の相違点を考えて、「場面」をつくる時のポイントをまとめる。	
★5	2つの場面の類似点を考えて、「場面」をつくる時のポイントをまとめる。	
6	3場面の、場の様子、登場人物、登場人物の行動、音を聞いた登場人物の気持ちを考える。	「ロイノート」
7	3場面を創作する。	「ロイノート」
8	それぞれが創作した3場面の内容を交流し、感想を伝え合う。	

★5 時の指導計画例

<p>◇学習活動・指導上の留意点 ◆ICT・デジタル教科書の活用場面</p>	<p>◆児童の反応 □先生の感想</p>
<p><u>導入：前時を振り返り、本時の学習のめあてをつかむ。</u></p> <p>◆前時に作成し「マイ黒板」をもとに、場面をつくるときのポイント（場の様子、登場人物、登場人物の行動が変化する、登場人物の気持ち）を確かめる。</p>  <p>◇場面をつくるときのポイントを見つけるという学習内容を理解する。</p>	<p>◆「マイ黒板」を見ながら、場面が変わると変化するものをつぶやいている。</p> <p>□学習の記録が保存されていることのよさを、感じている様子が見られた。</p>
<p><u>展開(1)：2つの場面の類似点を捉える。</u></p> <p>① 2つの場面の、場の様子、登場人物、登場人物の行動、登場人物の気持ちを確認する。</p> <p>◆前時までに「マイ黒板」にまとめた、場の様子、登場人物、登場人物の行動、登場人物の気持ちを音読する。</p>  <p>② 2つの場面の類似点を考える。</p> <p>◆「マイ黒板」に抜き出した叙述から、類似点と考えた部分に「ペン」で赤丸を付ける。</p>  <p>③ それぞれが考えた類似点を交流する。</p> <p>◇ペア交流、全体交流の順で行う。</p> <p>◆交流を通して、新たに見いだした類似点に「ペン」で赤丸を付ける。</p>  <p><u>展開(2)：場面をつくるときのポイントを整理する。</u></p> <p>④ 場面が変わっても、変わらないものをまとめる。</p> <p>◆「マイ黒板」の「ふせん」に入力する。</p> 	<p>◆場の様子、登場人物、登場人物の行動、登場人物の気持ちに関わる叙述を音読している。</p> <p>□叙述が正確に抜き出されていることで、正確な音読が促された。</p> <p>◆同じ表現、類似する表現に赤丸を付けている。</p> <p>◆「マイ黒板」を見せ合いながらペア交流を行っている。</p> <p>□赤丸を追加したり削除したりする姿から、修正のしやすさというよさを感じた。</p> <p>◆「マイ黒板」の「ふせん」に、中心人物、音がなること、音を聞いた人物が静かに聞いていることやよい気持ちになっていることなどを記入している。</p>
<p><u>まとめ：学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</u></p>	<p>□前時と本時の学習を合わせて、場面によって変わるものと変わらないものを捉えることができていた。次時から行う3場面の創作に意欲的な様子が見られた。</p>